

遠隔授業における個別最適な学びと協働的な学び

～個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指して～

遠隔授業配信センター 英語科

1 はじめに

令和3年、中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が公表された。この答申の中の「教育課程部会における審議のまとめ」には「学校における授業づくりに当たっては、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられる。各学校においては、教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で『個別最適な学び』の成果を、『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。」と書かれている。

遠隔授業と学校での授業とでは、それぞれ特徴が異なる。本県の遠隔授業では、大型モニター、電子黒板といった、恵まれたICT環境を使って少人数の生徒それぞれの学びの状況を見極め、その生徒に合った指導をすることができる半面、少人数であるがゆえにお互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うという協働的な学びの場を作ることが難しい。特に生徒1名だけでの授業では生徒が孤独感を感じる場合がある。

以上のような遠隔授業の特徴を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するために実践したことを報告する。

2 個別最適な学び

(1) Google Forms で小テストを作成し、学習した内容を確認する

ア 授業中での見取りにより単元の理解に必要な文法の小テストを作成して、Google Classroomで送信した。採点は解答後、すぐに自動で行われ生徒にフィードバックされる（図①）。解説だけでなく、関連するサイトへのリンクや動画も貼り、生徒は自分に合う方法を選んで復習した。英語検定対策についても同様の取組を実施した。

イ 振り返りを元に、前時の学習内容について10題程度の小テストを作成した。授業の初めに全問正解するまで問題に取り組ませ、解いている様子を観察しながら、個別に指導した。この小テストは何回でも取り組める設定にしているので、定期考査前には再度解くことにより、試験勉強にも役立てることができた。また、生徒自身が教科書を読み返してテスト対策問題を作成し、問題を解き合う活動も行った。苦手意識があった文法の問題での得点アップにつながり、学期末の振り返りには、「よく集中して頑張った。」「たくさん勉強したし練習もして、自分たちでも問題を作ったのがよかった」と書かれており、好評だった。



(2) 課題に対して生徒自身で学習方法を決める

2人以上の生徒がいると、学力差はほとんどなかったとしても音読や英文法など生徒によって苦手な分野は異なるため、どのような学習の援助をすればよいかを考える必要がある。特に期限を定め

K. あなたが日本にある世界遺産のリストを見ていると、ベンジー先生から次のように頼まれました。
 "I would like to visit a World Heritage site in Japan during this winter vacation. Could you recommend one? Please explain why you chose this place. It is okay if you choose a few World Heritage Sites in Japan."

ベンジー先生への説明を理由を含めて 60 語以上で書いてください。(複数の場所を選んでかまいません)(12 点)

World Heritage Site	Location	Characteristics
Himeji Castle	Himeji, Hyogo Prefecture	Fine example of a Japanese castle, called "White Heron Castle (白鷲城)"
Historic Monuments of Ancient Kyoto	Kyoto	17 historic monuments, including Kinkaku-ji and Ginkaku-ji
Shirakami-Sanchi	Northern Honshu	Beech(ブナ) forests and unique ecosystems
Yakushima	Yakushima Island, Kagoshima	Ancient cedar(杉) forests, Jomon Sugi
Hiroshima Peace Memorial (Genbaku Dome)	Hiroshima	Symbol of peace, survived the atomic bombing
Itsukushima Shinto Shrine	Miyajima Island, Hiroshima	"Floating" torii gate, beautiful shrine complex(社殿群)
Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom of Ryukyu	Okinawa	Castle ruins(遺跡) and sacred(神聖な) sites of the Ryukyu Kingdom
Iwami Ginzan Silver Mine and its Cultural Landscape	Shimane Prefecture	Historic silver mining(採掘) sites and landscape

■ 図④

3 個別最適な学びと協働的な学びの一体化

(1) 共通の課題に取り組んで、教え合い、学び合う

ア C校(2名)がALTに学校を紹介するvideoを作成するプロジェクトを行った(図⑤)。夏季休業中に例となる英文を参考に、それぞれが学校について紹介文を書き、2学期にどの場面どのような内容で紹介するのかを分担して考え、撮影するようにした。生徒たちは、実際に学校に行ったことのない配信センターのALTにも分かりやすいvideoとなるように、例えば、「教室から海が見える」ということを紹介するときには、窓から海が見えている場面をズームしたり、どのような内容にするか話し合いながら会話形式の場面を入れたり、キャプションや音楽を随所に入れたりする等工夫し、よりよいvideoにしようと思いつき、積極的に取り組んだ。また、全く原稿を見ることなく、レポーターとなって英語で学校のことを伝えていた。生徒の人数が少ないため、教科的な側面での協働的な学びで期待されているような効果は引き出しにくいかもしれないが、二人で共通の課題に取り組み、教え合い、学び合う様子が見られた。



■ 図⑤

イ 2(3)イの活動では、先に書き終わったB校(1名)の生徒が書いた英作文をA校(4名)の生徒が読み、気がついた点等について意見を述べ合い、共有のGoogle Slidesに英文を書いた。教師はコメントをつけてフィードバックを行ったが、完全に添削するようなことは避け、授業でどう直せばよくなるか互いに考える場面を設定するようにした。生徒は修正した英文を授業で読み合い、感想を伝え合った。

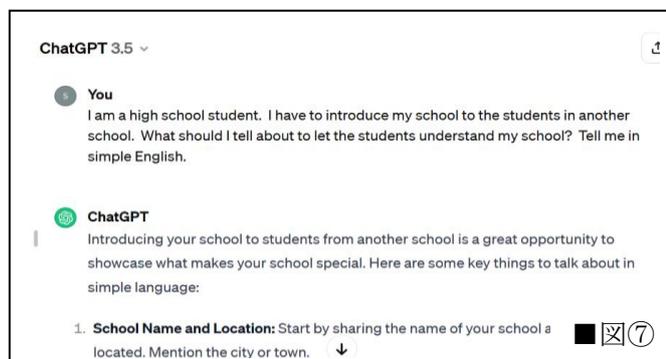
(2) 個別に調べたことを共有し、フィードバックし合い、さらに考えを深める

ア 2(3)ウの活動では、同時配信ではないため、A校(4名)が作ったクイズをB校(1名)の授業で教師が紹介し、B校の生徒は自分のクイズに取り入れたいところや自分では思いつかなかったところを確認した後で、A校のクイズを参考にしながら、クイズ作成に取り組んだ(図⑥)。同様にB校の生徒が作ったクイズはA校の生徒に紹介し、感想を述べ合い、フィードバックの内容を両校で共有した。B校の生徒は、支援教員からもアドバイスをもらいながら授業外にもスライド作成に熱心に取り組み、A校の生徒からは称賛の声が聞かれた。



■ 図⑥

イ B校（1名）とD校（2名）で1日だけの合同授業（自己紹介・学校紹介）を行った。当日までD校の生徒は相談しながら役割分担して Google Slides を共同編集しながら準備を進めることができたが、1名のB校では相談することができない。そこで、対話型 AI・ChatGPT に質問してみるよう助言した。生徒は AI から得られたアイデアを検討して原稿を作成して入力し、ChatGPT からフィードバックを得た（図⑦）。



さらに、原稿の結びとなる英文について ChatGPT に質問したところ、意図しなかった回答をされたため、やり取りを繰り返し原稿を完成させた。両校とも原稿の音読練習は、音声読み上げソフトを使って、教師が音読モデルを生徒の端末に送って練習させた。合同授業では両校の支援教員が見守る中、生徒は Google Slides を使って、緊張しながらも自分たちの学校に関心を持ってもらい、話している内容がきちんと伝わるように正確な発音で発表することができた。生徒からは「これまでD校の生徒さんがどんな活動を行っているのか、どんな学校なのかを知らなかったため、知ることができてよかった。」「正しいイントネーションや読み方が分かったので、相手に伝わるよう気をつけて発表した。」「何度も何度も繰り返し練習することと、自分が何を伝えたいのかを明確にすることが大事。」「これからプレゼンをする場面があれば、どんなことを言えば伝わりやすいか、どんなスライドならイメージしやすいかを他者の視点で考えるようにしたい。」という振り返りがあり、これらも両校で共有した。

4 おわりに

これまで協働的な学びは教室でのペアやグループでの活動というイメージを持っていたが、遠隔授業においても協働的な学びを意識した活動は可能であることが分かった。同じ課題であっても、それぞれの個性や考え方が現れることについて、ある生徒から「保育園や小学校からの友だちなのに、発表を聞くと、意外な面が発見できて楽しい。」という感想が寄せられた。たとえ少人数での授業であっても、多様性があることが協働的な学びの醍醐味であると感じた。生徒は一人で学習課題に取り組む時間も、意見を共有し合える時間も必要である。個別最適な学びと協働的な学びはそれぞれ別ものではなく、一体的に充実させていくことが求められている。主体的・対話的で深い学びの実現に向け、1人1台端末を十分に活用し、生徒の様子を見取り、フィードバックしながら授業をデザインし、学び方を生徒が選んだり創り出したりさせながら、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を模索していきたい。

参考文献等

中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会. 教育課程部会における審議のまとめ. 2021. p.6
ネットワーク編集委員会編. 「個別最適な学びと協働的な学び」とは何か. 授業づくりネットワーク. 2023. No.45 通巻353号. p.2-24. p.88-90
個別最適な学びについて ～しながわ学びのイノベーション～, https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/ct/pdf/20210413185946_1.pdf (参照 2023-12-26)